

前々回、前回と備中櫓の名前の由来について検討しました。今回は、備中櫓の性格について少し説明をします。

備中櫓はその字のごとく、「櫓」という建物です。櫓の歴史は古く、弥生時代の環濠集落である吉野ヶ里遺跡（佐賀県）でも物見櫓の柱穴が発見されています。また、平安時代の『和名類聚抄』（10世紀ごろ）では「櫓」は「やぐら」と読んで城上の守りの楼とし、「兵庫」を「つわものくら」と読んで武器庫としています。

近世城郭の「櫓」は、ふだんは食料や武器などの軍需物資の倉庫として使用され、有事には物見や攻撃の拠点となることから、平安時代の「櫓」と「兵庫」の機能を併せ持つ構造物であったといえます。

次に、櫓の構造について見ていきます。近世城郭の櫓の基本的な構造は、民家の土蔵と同様に厚い土壁を塗り回したもので、防火・防犯という点では倉庫に適しており、内部も土間のままや板敷きの床がほとんどでした。また、その外観については現存例の多くが白塗喰総塗籠仕上げとなっています。以上、簡単に櫓の歴史と概要について述べました。



写真1 備中櫓完成予想図

では、備中櫓と一般的な櫓との比較をしてみましょう。みなさんがすでに、あちら

# 津山城百聞録

## 53 津山城備中櫓3の性格

こちらで目にしている備中櫓完成予想図では、白漆喰仕上げでいかにも「櫓」という風情です。ところが、実はこの絵とは反対側の面（北面）の1階部分には濡れ縁が付属しており、部分的には障子戸が入るなど先ほど述べた一般的な「倉庫」としての櫓とは、若干異なった外観となっています。



写真2 施工中の備中櫓内部の様子

また、内装の仕上げも一般的な櫓とは随分異なっています。というのは備中櫓の中はいくつかの部屋に区切られていますが、そのすべてが畳敷きであり、部屋を仕切る襖には「唐紙（模様を刷り込んだ和紙）」が使用され、かなり上質な仕上げとなっていたことが分かります。そして、少なくとも文化6年（1806）の火災以前の御殿図では備中櫓とこれに続く多聞櫓（長局）や到来櫓の内部を御殿の一部として描いています。

櫓内部を御殿の一部として利用する理由については以前ここで指摘したとおり、津山城の本丸御殿はその建築スペースが限られていたからであり、必要な広さを確保するために櫓の内部まで御殿として利用していたためです。

このように、城外から見ると「櫓」でありながら、内部は「御殿」建築。この点が備中櫓の最大の特徴です。

残暑お見舞い申し上げます。寝苦しい夜が続いたので、夏はて気味の人もいるのでは。でもそうは言っていられませんが、始まりますよ、アテネ五輪。みんな日本選手を応援しなくては。暑い暑い、睡眠不足の日々はまだまだ続きます。(郁)

はい、この暑さで夏はてになっています。オリンピックが始まると、このうえに睡眠不足が加算されてすごいことになりそうです。こうなると一番若手の(X)さんがんばってもらいましょう。私と(郁)さんともう なんですか。(e)

自宅のある山奥は早くも秋の気配。7月に盆トンボが飛び、キツネノカミソリ(ヒガンバナ科)が咲き、稲に穂が付き始めました。一方、津山は連日の猛暑、両地の往来で体の調子を崩し、違つ意味で夏ばてしそう。これっておふたりにはいやみ?(X)

### 編集後記

### 今月の納税

市県民税2期  
国民健康保険料2期  
介護保険料3期  
納期限：8月31日(火)

### ひとの動き

(7月1日現在)  
人口 90,149人(前月比+30)  
男 42,990人(同+35)  
女 47,159人(同5)  
世帯数 35,131世帯(同+48)

### 6月中の異動数

出生 85人、死亡 50人  
転入 222人、転出 227人

8月

2004

編集・発行 津山市企画部行政広報室  
〒708-8501岡山県津山市山北520  
☎0868-23-2111(代) 32-2029(直通) ☎0868-25-0263  
Eメール kouhou@city.tsuyama.okayama.jp  
津山市ホームページ <http://www.city.tsuyama.okayama.jp/>  
(PDFファイルで全紙面を掲載しています)

発行日 毎月10日  
印刷 株式会社 廣陽本社

